

# リーディング「古くて、新しくないリーディング授業」

英語科 中津川 義 浩

第3学年の英語はすべて自由選択科目である。そのうちのリーディング（2単位）は4講座開設されており、授業内容は各担当者に任されている。

他の3講座は主として多読、速読に重点を置いているが、この授業では典型的な読解問題集に収められている文章を精読しながら、問題演習を行なった。読んで、訳して、設問の「答え合わせ」をすると、極めて単調な流れの授業ではあるが、全員に数多く発問をして考えさせ、表面的な字面の解釈の背後にある意味やメッセージに気付かせるように留意したつもりである。

教材としては、すでに絶版になっている *Choice Passages from Contemporary Authors*（『現代英文の読解演習』）〔英潮社〕をプリントとして使用した。この教材は、英米の文学者、評論家、エッセイストの文章を比較的短めながらそのままの形で抜粋したもので、かつての国公立大学2次試験に対応する難易度の設問が付いている。英米人の筆者（すべて男性）が知的レベルの高い同国人を対象に書いた文章を、日本の高等学校の女子生徒が読んで理解しようとするのであるから、その落差はかなり大きい。抽象的な内容は具体的に理解し、表現させ、また、具体的な記述からは抽象的、一般的なメッセージを引き出させるように、授業中の発問に工夫を加えたつもりである。

また、本文の正しい理解のために、新しい（と言っても、30年以上も前の）英語学の知見を授業に取り入れるようにした。詳細については、公開教育研究会当日の資料の一部（別紙）を参照していただきたい。

教師も生徒もともすれば単調に墮しがちな読解、それも精読の授業である。その単調さを破るべく、予習内容を評価する持ち込み可の小テスト（これは非常に効果的である）、加えて、投げ込みの語法問題やリスニング問題の演習のいずれかを折りに触れて取り入れるようにしており、当日はそのすべてを披露したため、時間配分の上で無理が生じてしまった。

各講座定員30名のところ、当初の受講者8名、当日の出席者6名の少人数授業である。それはこの授業が大方の生徒から支持されていないということの証左かも知れないが、それだけに、選択者の意欲と動機付けは高いとも言える。ところで、極めて選択者の少ない選択科目であるこのリーディングの授業は、本校の公開教育研究会で披露するに足る一般性を持ちえないとの批判が一部の同僚からあった。「一般性」とは何か、研究会参加者に裨益する有用性とは一体何かとの議論はさておき、他校の同種の

研究会が、日常の実践とかけ離れた、言わば、「ショー」と化している現状に鑑み、あえて私の拙い授業を、恥を忍びつつ、気取らず飾らず、ありのままにお目にかけて次第である。

〔リーディング・Aコース〕

より深い読みのための指導項目、および話題

【1】

1. 筆者の国権
  - ・ 綴り字 "theatre" に注目させる。
  - ・ 他の英国綴りを紹介
2. 設問 3 "nothing much"
  - ・ 実際に想像される状況と、表現本来の意味とを峻別させること。
3. l. 11 "It is really extraordinary how in certain people..."
  - ・ 解釈の便宜上, "how" を "that" に置き換えて理解させる。
  - ・ 「ある～」の意味の "certain" と "some" の意味合いの差を考  
えさせる。

certain: (attrib only) not named, stated or described,

although it is possible to do so

4. l. 17 "(.) until..."

・ 関係副詞非制限用法と平行的に理解させる。

~, and at last ...

5. l. 21 "may" による譲歩, "but" (l. 22) による「反撃」

6. l. 24 中断部 "... 前後の論理展開。"Yet" の非整合性に気づかせる。

7. 物語の続きを想像させる。

原文の配付

【2】

1. l. 11 "at a time when the general civilization ..."
- ・ "at a time" ≠ 「一度に, 急激に」《熟語バカ》
- ・ 関係詞に修飾されると定名詞句との誤解。
- ・ "general civilization of the West"
  - × 「西洋の一般文明」とは?

思考停止の解釈

語原 (L. *genus, genera*) に遡って。

2. 設問 1, 空所(8)

・ "evident" を選ぶ者が圧倒的に多い。この語は人間を主語にでき  
るかどうかを考えさせる。

3. l. 24 "were it not that we are ..."

・ cf. but that ...

She would have fallen but that he caught her.

"that" 以下は直説法。

・ cf. if it were not for ~, but for ~

【3】

1. アメリカの日曜版

・ 日本の新聞の正月特集

・ display advertisements

・ cf. classified ads

・ features 「特集記事」

・ cf. news report

・ 英字新聞を見せる, 読ませる

2. l. 2-3 "Much of this space is occupied by ..."

・ 受け身の必然性

旧情報から新情報への円滑な移行

「A → A' → B」

cf. thematic fronting の場合も。

3. l. 9 "The syndicated political commentators"

・ 表現の簡明さ

transferred epithet の一種

・ political commentators whose commentary is syndicated

☆ syndicate → スヌーピーグッズ

4. l. 13 "politicians" は「悪い政治家」?

・ cf. statesman: 「良い政治家」なら, 誰でもこう呼べるか。

5. l. 19 "the testimony before investigating committees"

・ 「査問委員会における宣誓証言」

誤解する者, 多し。

6. l. 22 "they": 従属節中の後方照応的 (cataphoric) 代名詞

7. l. 23 "enjoy": have as an advantage or benefit: ~ good health/a good income.

「享受する」

8. 設問3

「観点, 範囲」を表す "in" 《すぐ from を選ぶのは熟語××》

【4】

- 1. l. 4 "To all appearances" = judging by all that can be seen or is known
- 2. l. 12 "What has he done to have so many admirers?"
  - ・「判断の根拠」を表す不定詞。
  - cf. that he has / should have so many admirers?

【5】

- 1. l. 1 "the comic"
  - ・「the + 形容詞」抽象名詞の代用
- 2. ll. 1-3 「humour とは精神ではなく、人格に関わる事からである」
  - ・どういふことか。
- 3. l. 5 "socially" と "morally"
  - ・心の視線 (ベクトル) はそれぞれどちら向きか。
- 4. ll. 5-6 "not ~ any more than ..."
  - ・「麻の公式」

↓

異なった尺度での比較

The little boy had an umbrella which was as long as he was tall.

★「その男の子は、自分の背丈ほどの（長さの）傘を持っていた」  
和文英訳をさせると、まずできない。

☆「9回の裏の大逆転」

He is as wise as you are.

→ He is as wise as you are stupid.

The student says Mr. N is stupid.

→ The student<sub>L</sub> says Mr. N<sub>L</sub> is stupid.

- 5. l. 9 "are ridiculous" [permanent]
- "are placed in ridiculous situations" [temporary]

【6】

- 1. ll. 2-3 "We are awkward and shifty."
  - ・ shifty: evasive
- 2. l. 18 "It is wonderful [what an insight into domestic economy]0 [being really hard up]S [gives]V [one]0."
  - ・構造の理解
  - ・ wonderful: 文字どおり, "full of wonder" cf. *The (Wonderful) Wizard of Oz*
  - ☆Oz の由来のエピソード紹介
- 3. l. 27 "son and heir"
  - ・同一人。「跡取り息子」  
the writer and poet

【7】

- 1. 読書を好む (literary) 「善玉」と、読書に興味・関心を持たない (unliterary) 「悪玉」を表す語句を指摘させる。
- 2. l. 9 "will" の意味
- 3. ll. 13-14 "literary people are always looking for leisure"
  - ・進行形の意味。
  - "characterizing function"
  - "emotional colouring"
  - 他の用法も。
- 4. 設問6の問題点